

運営第6期

令和4年度（2022年度）～令和6年度（2024年度）

令和5年度事業計画



EPO TOHOKU

東北環境パートナーシップオフィス
Environmental Partnership Office Tohoku



東北地方
ESD活動支援センター
Education for Sustainable Development



公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON）

運営第6期 中期事業計画

これまで EPO 東北では県境を越えて東北ブロックのネットワークを形成することに注力してきました。社会の動きは大きな変革期を迎えており、地域の課題解決にあたり、課題の本質を見極めること、環境面だけではなく社会的・経済的な側面からも向上を図る視点を持つことが肝要です。また、その実行にあたっては多様な主体の連携・協働が欠かせないことから、分野を横断する重層的なネットワークの構築により、多角的な視野を持って課題解決の手法を議論し、これまでにはない新しい取組みを創出することが期待されます。

そこで、仙台に拠点がある EPO 東北並びに東北地方 ESD 活動支援センターの連携を円滑にするため、新たなネットワーク基盤及び運営基盤づくりに取り組みます。パートナーシップ団体や地域 ESD 活動推進拠点、地域で活動に取り組む様々な主体との連携・協働のあり方を見直し、オンラインの手法を活用しながら時代に即したスタイルへとネットワークを結び直します。ついては、新たに地域の活動を支援するコーディネーターを発掘し、「地域リソースの活用」からステップアップし、「地域リソースが主体的に動くしくみ」づくりを目指します。環境活動に取り組む自治体、NPO、企業、大学等、多様な主体に働きかけることで、活動の底上げを図ります。



目標 新たなネットワーク基盤・運営基盤の確立

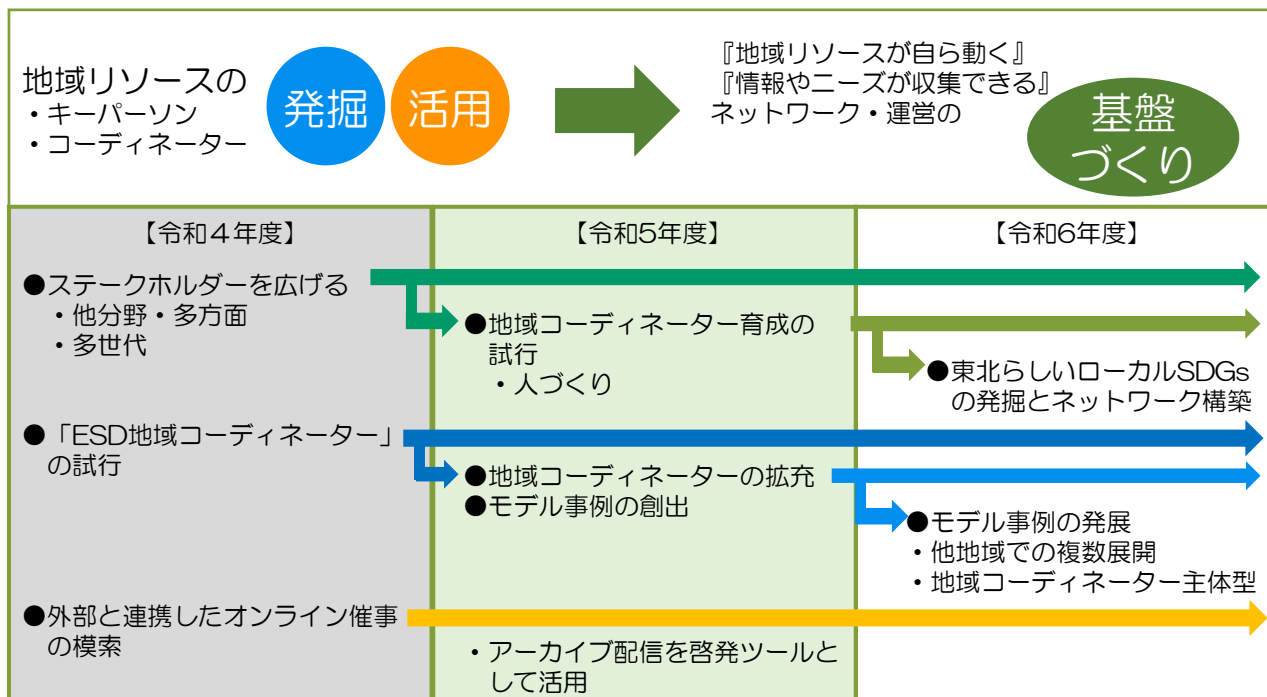
- ・地域ネットワークと接続した重層的・複線的なネットワークを構築する
- ・外部リソースを活用した運営体制

課題

新たなテーマでの連携・協働体制の構築	<ul style="list-style-type: none">・「脱炭素」「OECD」等、新たなテーマへの対応・ESDの質的向上・量的拡大
既存の地域ネットワークとの接続	<ul style="list-style-type: none">・既存ネットワークの結び直し・時代に即した連携・協働のあり方の模索
運営体制の再構築	<ul style="list-style-type: none">・業務の効率化・外部リソースの活用

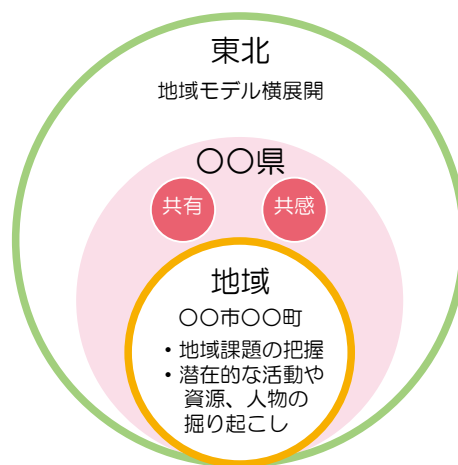
業務の目的

運営第6期（令和4年度～令和6年度）
 中期目標：新たなネットワーク基盤・運営基盤の確立



【ネットワークの展開イメージ】

- STEP1 地域への働きかけ
- STEP2 地域から県域への広がり
- STEP3 モデルを東北の他の地域へ横展開



業務の目的

EPO 東北が環境教育等促進法に規定する国の役割を果たすため、また、東北地方 ESD 活動支援センターが国内実施計画等を踏まえた役割を果たすため、以下を目的に業務を推進します。

- ①様々な主体との連携・協働の取り組みを広げ、効果的かつ効率的に環境保全活動や環境施策への協力及び ESD 活動を活性化させること
- ②東北ブロックにおける多様な主体のネットワークの構築により ESD の質的向上・量的拡大を図ること
- ③地域の ESD と地域内外の ESD 活動をつなぎ、人づくりの側面から ESD の目標である SDGs 実現への貢献に寄与すること
- ④地域循環共生圏および地域脱炭素ロードマップの考え方にに基づき、持続可能な地域づくりを通じて環境で地方を元気にしていくとともに、持続可能な社会を構築するための創造に取り組むこと

東北環境パートナーシップオフィス 令和5年度事業計画書

1.EPO 東北運営業務

(1) 事業検討委員会の開催運営等

概要	EPO 東北業務の実施に当たり、幅広い知見から意見を聴取することを目的に NPO、行政及び企業等の関係者からなる委員会を設置し、年 2 回の委員会を開催する。				
委員	8 名				
委員会	開催日程		形式	開催地	内容
	第 1 回	5 月末	対面を中心とした	仙台市内	事業計画に対する意見聴取
	第 2 回	2 月上旬	ハイブリット形式	仙台市内	事業報告及び次年度の展望に対する意見聴取
任期	3 年間（運営第 6 期 R4 ～ 6 年度）				
	【備考】 行政関係者委員については管内県の環境教育担当課長へ委嘱し、任期は 1 年とする。	年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
		委嘱	岩手県 宮城県	秋田県 山形県	青森県 福島県

(2) 基本業務

情報発信	Web サイト	イベント情報のほか関係機関の動向、公募や助成金情報等を Web サイトに掲載し広く情報発信を行う。				
	メールマガジン	月 2 回、定期的にメールマガジンを発行して情報発信を行うとともに Web サイトの閲覧を誘導する。				
	その他	運営第 6 期から紙媒体の運用を見直し「EPO 東北通信」の発行をとりやめた。事業ごとのとりまとめ資料等を作成し、PDF データを事業紹介ツールとして活用する。				
相談対応等	環境教育等促進法第 19 条 1 項に基づく国の地域 ESD 拠点として、各種情報紹介及び相談に対応し、必要に応じた助言を行うとともに各種会合に参加する。また必要に応じてパートナーシップ形成のための対話の場作り、過去に対応した案件のフォローアップを行う。					
全国事業に関わる業務	開催日程		形式	開催地	会議の目的	
	全国 EPO 連絡会議	第 1 回	5 月	オンライン	—	地方 EPO 間の連携強化と情報共有を目的に開催される。
		第 2 回	10 月	対面	北海道	
		第 3 回	1 月	対面	東京	
パートナーシップタスクフォース	未定	対面	東京	各地方 EPO が実施する協働取組の効果最大化に関する検討を行う。		
情報交換会	未定	対面	東京	持続可能な地域づくりのための情報交換を行う。		
東北地方環境事務所との協働	開催日程		形式	開催地	会議の目的	
	事業運営会議	第 1 回	4 月	対面	宮城	業務の進捗について東北地方環境事務所と定期的な共有の場を設け、事業内容について意見交換を行う。
		第 2 回	6 月			
		第 3 回	8 月			
		第 4 回	10 月			
		第 5 回	1 月			
施設の維持・管理	<ul style="list-style-type: none"> ・R5 年度 4 月 1 日から開館時間を 9:00 ～ 17:30 に変更（R4 年度まで 9:30 ～ 18:00） ・民間団体等が環境保全に関する情報交換や交流を図る機会を増やすため、会議スペースの供用、他団体の発行する機関誌等の配布スペースの確保及び関連図書の出借等を行う。 					

(3) 地域循環共生圏プラットフォーム事業に係る業務

概要	「令和5年度環境で地域を元気にする地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業」に採択された活動団体に対して構想策定・事業計画策定・ステークホルダーの組織化の各過程に応じた支援を行う。				
		時期	内容		
	ヒアリング	4月	団体の事業目標及び年間計画についてヒアリングを行い、ヒアリングシートおよび年間支援計画をGEOCに提出する。		
	伴走支援	4月～3月	構想策定・事業計画策定・ステークホルダーの組織化の各過程に応じた支援を行う。		
	定例会議	月1回以上	採択団体と電話やメール連絡、オンラインまたは対面の会議を実施する。		
会議名等	開催日程	形式	開催地	内容	
中間共有会	9～11月	対面	未定	環境整備団体間のノウハウ交流や学び合いに加え、関係者（全国事務局）が団体の活動状況を把握するために東北ブロック中間共有会を開催する。	
ステークホルダーミーティング	7～1月	対面	①岩手県釜石市 ②山形県西川町 ③岩手県普代村	環境整備団体が主催する地域のステークホルダーを対象としたミーティング（1回以上）の後方支援を行う。	
会議	キックオフミーティング	6/7-8	オンライン	—	環境整備に取組む20団体が集まり、活動計画を発表する。
	作業部会（2回）	①8月 ②2月	対面	東京	環境整備過程のプロセス分析や加速化の方策検討などの意見交換を行い、地域プラットフォームの進捗を測る指標について議論する。
	共有会	5/16	オンライン	—	環境整備に取組む団体の活動計画や進捗状況に関する情報の共有や意見交換を行う。
	事業形成会議	12月頃	対面	東京	環境整備等に係る進捗状況に関する情報の共有、意見交換を行う。
	成果共有会	3/7-8	対面	東京	環境整備に取組む20団体が集まり、取組み結果を発表する。
事業化支援団体の活動の情報共有	全国事務局が実施する事業化支援に関して、管内で活動する事業化支援団体の打合せに参加し、進捗状況を把握するとともに全国事務局の求めに応じて制度設計に協力する。				
支援終了団体のフォローアップ調査	R1年度から4年度の環境整備、支援チーム派遣又は事業化支援を終了した活動団体のうち1件程度を対象に、その後の取組みの進捗についてヒアリングを行いGEOCに報告する。				

【R5年度採択団体】

全国	東北	分類	団体名	活動地域	
28団体	4団体	環境整備	新規	一般社団法人ゴジョる	岩手県釜石市
			新規	西川町地域資源活用イノベーション推進協議会	山形県西川町
		事業化支援	継続	株式会社アースカラー	岩手県普代村及び周辺地域
				日承循環合同会社	山形県鶴岡市

(4) 地域循環共生圏構築に向けた身近な自然資本の活用に関する意見交換会の開催【生物多様性】

概要	2022年12月に生物多様性に関する国際目標である昆明・モントリオール生物多様性枠組が採択され、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする「30by30目標」が盛り込まれた。国内では目標達成に向けて2022年4月に30by30ロードマップを公表し、2023年4月からは国内独自の制度「自然共生サイト」の運用が始まっている。森里川海の恵みは自立・分散型社会を支える基盤であり、地域の身近な自然とステークホルダーをつなぐことは地域循環共生圏の創造に資するものであると捉え、身近な自然資本を活用した地域づくりに関する意見交換会を開催し、パートナーシップの促進を図る。			
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 関係主体へのヒアリングと情報収集を行い、生物多様性に関心のある層やニーズを把握する。 地域の主体と連携・協働した意見交換会等を開催し、生物多様性に関する地域の関心を高める。 関係主体とのネットワークを広げ、意見交換会等の開催をきっかけに地域のパートナーシップが促進される。 			
催事	開催日程	形式	開催地	内容
フォーラム	未定	対面	秋田県	パートナーシップ団体と連携し、地域の多様な主体を対象としたフォーラムを開催する。生物多様性に関する最新動向を学び、地域における活用について考える。
意見交換会	未定	対面	宮城県	関係主体へのヒアリングを基に、地域のニーズに合致した意見交換会を企画する。



(5) 地域からのグリーン社会の実現に向けたステークホルダー連携促進事業

概要	地域に存在する「ヒト（ステークホルダー）」、「モノ（資源）」、「カネ（金融・経済）」、「情報（ノウハウ）」を繋ぐ場を開催し、グリーンでレジリエントな社会を実現した「地域循環共生圏」のドミノを地域内に波及させるための地域内の対話の促進を図る。			
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 行政や金融機関等へのヒアリングを行い、地域の状況やニーズを把握する。また事業の実施を通して関係構築に努め、次年度の事業につなげる。 地域の主体と連携・協働した情報交換会等を開催し、地域循環共生圏の視点から地域を見つめ直す対話の場を提供する。これまでEPO東北では「東北地域のネットワーク」を念頭に広域的な取組を展開してきたが、エリア別の対話の機会を設けることで地域の関係主体の連携・協働を促進するモデル事例を創出する。 			
催事	開催日程	形式	開催地	内容
情報交換会①	未定	対面	宮城県	事業者の脱炭素に向けた取組みを支援するNPOや地球温暖化防止活動推進センターおよび行政と連携した情報交換会を開催する。
情報交換会②	未定	対面	宮城県	
情報交換会③	未定	未定	未定	行政や金融機関等へのヒアリングを実施の上で地域のニーズや関心あるテーマについて情報収集を行い、関係主体と連携した情報交換会を企画する。
情報交換会④	未定	未定	未定	
事業検討会議	未定	オンライン	—	ステークホルダーとのネットワーク構築状況、意見交換の場の運営、連携のプロセスなどに対して情報・意見交換を行う。

(6) パートナーシップ団体情報交換会の開催【東北独自】

概要	円滑に業務を進めるために東北各県の窓口となる団体との連携・協力関係を築いており、総称して「パートナーシップ団体」と呼んでいる。パートナーシップ団体を対象に、地域循環共生圏や生物多様性及び脱炭素等をテーマとした講演及び事例紹介等を含めた情報交換会を開催し、多様な主体との連携の促進や事案の発掘等を図る。			
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・パートナーシップ団体の活動の活性化に向けて先行事例の知見やノウハウを共有し、有益な情報交換を行うことで地域循環共生圏の実現に貢献する。 ・地域脱炭素の推進に向けた地球温暖化防止活動推進センターや中間支援団体等とEPO東北が連携・協働していく体制を構築する。 			
催事	開催日程	形式	開催地	内容
情報交換会	7月	対面	宮城県	脱炭素をテーマとした国内の事例について対談形式で学び、情報交換を行う。また、EPO東北との事業連携の在り方について意見交換を行う。
団体一覧	所在地	団体名		
	青森県	NPO 法人青森県環境パートナーシップセンター		
	岩手県	NPO 法人環境パートナーシップいわて		
	宮城県	NPO 法人環境会議所東北		
		NPO 法人せんだい・みやぎNPOセンター		
		公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク		
	秋田県	NPO 法人環境あきた県民フォーラム		
		一般社団法人あきた地球環境会議		
山形県	NPO 法人環境ネットやまがた			
福島県	NPO 法人うつくしまNPOネットワーク			

(7) 拠点間連携による地域内の中間支援機能強化【東北独自】【みちのく薪びと祭り】

概要	持続可能な社会の実現に向け、東北の特色を生かした環境活動の促進を目的として創設したネットワークの更なる強化を目指すとともに、ネットワークを構成する団体等の活動や取組みを地域循環共生圏の創造へとつなげるため、交流会「みちのく薪びと祭り」を開催する。森林の適正な管理をしながら間伐材等をエネルギーとして活用し、資源や人、経済の地域循環に取り組む小さなモデルに焦点を当て、関係者が相互に学び合う交流の機会をもけることで参加主体の活動の活性化を図る。			
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・薪の活用を基軸に地域の環境と社会と経済が循環する社会の在り方について考え、議論し、各地域の取組みに新たな視座を加えることで東北らしい地域循環共生圏の実現に貢献する。 ・「次世代の担い手」に焦点を当て新たなステークホルダーの巻き込みを図り、若手や学生、女性など、多様な主体の参加を得る。 ・地域循環共生圏プラットフォーム事業環境整備支援と連動性を持たせ、活動団体の取組の推進を支援する。 			
催事	開催日程	形式	開催地	内容
みちのく薪びと祭り	9月	対面	岩手県釜石市	相互交流と学び合いを目的とし、東北内の薪に関する活動を行っている団体が一堂に会して活動の共有・情報交換・開催地の視察を行う。
キーパーソン会議	6月	対面	宮城県	「みちのく薪びと祭り」の協働による企画運営を目指して企画の方向性や参加主体の役割分担について協議する。

3. 東北地方 ESD 活動支援センター

(1) 地方活動支援企画運営委員会の開催運営等

概要	ESD の推進に取り組んできた自治体・企業の担当者、学識経験者、地方で環境保全に取り組んでいる専門家からなる委員会を設置し、年 2 回の委員会を開催する。				
委員	8 名				
委員会	開催日程	形式	開催地	内容	
	第 1 回	5 月末	対面を中心とした	仙台市内	事業計画に対する意見聴取
	第 2 回	2 月上旬	ハイブリット形式	仙台市内	事業報告及び次年度の展望に対する意見聴取
任期	3 年間（運営第 6 期 R4 ～ 6 年度）				
	【備考】 行政関係者委員については EPO 東北事業検討委員と兼任とし、任期は 1 年とする。				

(2) 基本業務

情報発信	Web サイト	地域の ESD 活動事例や地域の ESD の推進に役立つ情報発信をするために、地域情報を収集・整理し、全国センターが運用する Web サイト内に情報を掲載する。			
	メールマガジン	月 2 回、定期的にメールマガジンを発行して情報発信を行うとともに Web サイトの閲覧を誘導する。			
	パンフレット (電子媒体)	地域の ESD 活動実践者等による ESD の推進に資することを目的として、地域に密着した情報や事例等を掲載した地方センターのパンフレットを電子媒体で作成し Web サイト等で広報する。			
相談対応等	地域の ESD 活動実践者や実践団体等から ESD 活動を実践するに当たって相談や支援の要請があった場合は適切に対応する。				
ESD 地域 コーディネーター	学校教育関係の実践者等をコーディネーターとして配置し、ESD 実践に関心を持つ主体に働きかけ積極的に地域の取組みを支援することにより、ESD 活動の普及に努める。				
	活動地域	氏名	備考		
	青森県	貝森毅彦氏	青森県地球温暖化防止活動推進員、元小学校校長		
	宮城県	内藤恵子氏	公益社団法人仙台コネスコ協会副会長・ESD 推進委員長、元小学校校長		
	福島県	齋藤修一氏	元只見町教育委員会教育長		
	【定例ミーティング】				
	開催日程	形式	開催地	内容	
	第 1 回	5 月	対面	仙台市内	活動内容の共有と ESD 活動の推進に向けた情報交換を行う。
	第 2 回	8 月	オンライン	—	
	第 3 回	12 月	オンライン	—	
第 4 回	3 月	対面	仙台市内		

(3) 域内外の多様な主体の連携促進、交流の機会の提供【ESDfor2030 学び合いプロジェクト】

概要	気候変動時代のESDを促進するために、ESD推進ネットワークで注力する気候変動を切り口とした学び合いの機会を提供することを目的とした「ESDfor2030 学び合いプロジェクト」を企画する。実施にあたってはESD地域コーディネーターおよび地域ESD推進拠点と連携し、地域特性を活かしたモデルプログラムの創出に取り組む。			
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ローカルの課題、地域資源への気候変動の影響から展開する気候変動教育プログラムを確立する。また「総合的な学習」での単発教科の展開ではなく、各関連教科と連動したモデルプログラムを創出する。 ESD地域コーディネーターと地域ESD推進拠点が連携し、地域内で継続的に展開される体制を構築しロールモデルを創出する。 			
催事	開催日程	形式	開催地	内容
勉強会①	未定	対面	青森県	プログラムを進める上で実施校のニーズや抱える課題に対してアプローチする、勉強会をESD地域コーディネーターと相談の上企画する。
勉強会②	未定	対面	青森県	
実践活動	未定	対面	青森県	実施校での実際の現場に出での体験や、ゲストティーチャーを招聘してのワークショップの実施等の活動を実施する。
意見交換会	12月	対面	青森県	青森県内、東北内のそれぞれの関係者が集い、プログラムの成果や課題を整理する意見交換会を実施する。
作業部会 (2回)	①未定 ②未定	対面	東京	気候変動を切り口としたESDを推進するに当たってのノウハウや課題を共有し、方策を検討するために全国センターが開催する会合に参加し議論する。

(4) 東北ESD/SDGsフォーラム

概要	ESD実践者および関心のある層がESD/SDGsについて理解を深め、実践事例を基に知見やノウハウを学ぶことで地域のESD活動の促進に貢献する。また、東北地域のESD事例を広く発信する機会と捉え、多様な主体との連携・協働による企画運営によって地域ネットワークの構築を支援する。			
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 東北地方におけるESD活動の実践者及び関心層に対してESD/SDGsを学ぶ機会を提供し、ESD活動の推進を支援する。 (企画内容、対象に合わせて達成目標を追加する) 			
催事	開催日程	形式	開催地	内容
東北ESD/SDGsフォーラム	未定	未定	未定	オンライン催事が定着して以降、開催形態や企画内容について参加者のニーズが大きく変化していることを踏まえ、関係者に意見を聴取しながら開催形態及び企画内容を検討する。

(5) 地域ESD活動推進拠点等のESD活動の支援

概要	地域ESD拠点等との間で情報共有やイベント協力等の連携を図ることにより、地域におけるESD活動を支援する。また、ESD活動実践者に対する情報発信や調整等を行うとともに、地域ESD拠点の登録手続きにおいては登録審査を行う全国センターに情報提供を行う。			
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 各事業を実施する中で活動情報の共有および地域ESD拠点間の連携を働きかけ、ESD活動を支援する。 地域ESD拠点に対し仕組みやイベント情報の提供を定期的に働きかけ、東北地方ESD活動支援センターのウェブサイトやメールマガジン、パンフレットに掲載する。 			
登録数	全国173件/東北20件			

(6) ESD 研修会【東北独自】

概要	地域からの ESD 推進の底上げと活性化を図ることを目的に、地域の ESD 実践者等を対象に、ESD 関連の有識者又は先進的実践者等による講演及び意見交換を行う研修会を開催する。			
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ESD 活動の実践者及び関心層に対して ESD/SDGs を学ぶ機会を提供し、ESD 活動の推進を支援する。 開催エリアにおける ESD ネットワーク構築を支援する。 (企画内容、対象に合わせて達成目標を追加する) 			
催事	開催日程	形式	開催地	内容
ESD 研修会	未定	未定	未定	地域の ESD 実践者の学びや開催エリアのステークホルダーを巻き込んだネットワーク形成に資すると判断した相談案件に応じて、地域のニーズに合わせた研修会を開催する。

(7) 全国センターとの連携協力の推進等

概要	全国センターが実施する意見交換会及び企画運営委員会に可能な限り参加する。また、全国センターの求めに応じて情報提供や資料作成・提供、ESD 推進ネットワーク活動状況調査等に積極的に協力・対応する。					
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 全国センターの求めに応じて各種会合への参加、情報提供や資料作成・提供に対応する。 全国及び地方 ESD 活動支援センターの事業について積極的に情報収集を行い、取組み手法等について次年度事業の参考とする。 					
会合等	開催日程		形式	開催地	会議の目的	
	ESD 全国フォーラム		12 月	対面	東京	ESD 活動を推進する関係者が一堂に集い、最新の国際動向・国内動向・ネットワーク形成の状況を共有し、全国各地の実践事例を学ぶ機会として開催される。
	ESD 活動支援センター連絡会	第 1 回	5 月末	対面	東京	地方 ESD 活動支援センター間の連携強化と情報共有を目的に開催される。
		第 2 回	1 月末	対面	東京	
	全国協力団体意見交換会	第 1 回	未定	対面	東京	全国的なネットワークを有する団体同士の連携を深める機会として開催される。
		第 2 回	未定	対面	東京	
全国センター企画運営委員会	第 1 回	未定	対面	東京	全国センターの事業計画及び事業報告に対する意見聴取が行われる。	
	第 2 回	未定	対面	東京		